

令和3年度 マリンバイオテクノロジー学会「若手の会 秋のシンポジウム」報告

2021年11月25日(火) 16:30~18:00、昨年度に引き続きオンラインで、マリンバイオテクノロジー学会若手の会主催のシンポジウムを ZOOM webinar により開催し、100名近くのご参加をいただきました。

今回のシンポジウムでは、大阪大学大学院生命機能研究科教授、近藤 滋 先生をお招きし、“「ふしぎ」を見つけて「科学」にするまで」というタイトルでご講演いただきました。近藤先生には、シマウマや熱帯魚など、多様な動物で共通する模様のパターンがどのように生じるのかの謎や、カブトムシのツノがごく短時間で形づくられる秘密など、私たちが目にしたことのある現象から、どのように「ふしぎ」を見つけ出して、「科学」で解き明かしてきたか、を冒険映画になぞらえてご講演いただきました。近藤先生のご研究の内容は有名で、ご存知の方も多いかと思いますが、美しくユニークな生物の写真や動画と、登場する生き物たち以上に美しいサイエンス、ユーモアとエンターテインメント性に富んだプレゼンで、あっという間の1時間に感じました。さらに、活発な質疑応答があり、有意義な意見交換ができたのではないかと思います。

マリンバイオテクノロジー学会 若手の会では、多様な分野の研究者からなるマリンバイオテクノロジー学会員が集えることや、学生、若手研究者に向けた催しであることを主旨として秋のシンポジウムを企画・主催させていただいています。今回のシンポジウムにも多くの学生の参加があり、今後のマリンバイオテクノロジー学会を背負って立つ学生や若手研究者にとって、研究、科学との向き合い方、研究者としての生き方など、近藤先生の経験を垣間見られたことが、良い刺激になったのではないかと感じました。

今回もオンライン開催となりました。講演後、参加者同士で歓談する機会がないことは大変残念ではありますが、講演者、参加者とも、地理的、時間的な制限が少なく、ご参加いただきやすいことや、チャット機能等を使うことによって質問しやすいこと(特に、オンライン講義で慣れている学生の方々にとって)などはオンライン開催の大きなメリットであるとあらためて感じました。今後も上手くオンラインウェビナーを活用し、若手の会ならではの方法でマリンバイオテクノロジー学会を盛り上げていきたいと考えております。

(企画責任者 東京海洋大 矢澤良輔)

